



松陵健児

発行日：平成22年9月1日
発行人：能代高校東京同窓会
責任者：太田勝治
編集：会報誌委員会
題字：山田晃一(第42期)
印刷：大森太田印刷(有)



平成22年7月3日「能高祭」が開幕した日に撮影した能代高校前庭。校舎前の「自在の像」(右側校舎の右手)が赤いふんどしを締めてがんばっています。写真手前中央が理数科新設記念で植樹されたりんごの木で、大きなものは約165センチ、他は100センチ前後。写真手前左は、東京同窓会が平成14年3月23日に植樹した桜の木。東京同窓会が植樹した木は、自在の像近くの桜と、東京同窓会の標柱のすぐ後ろに見えるサルスベリの3本です。3ページの関連記事をご覧ください。(写真提供：小林勝平氏)

平成22年度 能代高校東京同窓会総会のご案内

【日時】平成22年10月17日(日)

□受付 12:00～

□総会 12:20～

□講演会 13:00～

講師 DOWA エレクトロニクス株式会社
社長 大塚 晃さん(第46期)

□懇親会 13:40～16:00

【会場】アルカディア市ヶ谷 3階 富士の間

詳細は8ページに掲載しています。東京同窓会ホームページ <http://shoryokenji.web.fc2.com/>

【年会費】3,000円(1世帯)

*お振込、または当日受付にて受領します。

【懇親会費】男性7,000円 女性6,000円

*割引制度や特例があります。

*24期以前の先輩割引を新設しました。

【出欠】同封のはがきは9月26日(日)までに投函ください。東京同窓会ホームページでも受け付けます。

はやぶさ帰還に思う

東京同窓会会長 第29期 太田 勝治

2010年6月13日午後10時50分、「はやぶさ」本体から切り離されたカプセルが南オーストラリアのウーメラ砂漠のアボリジニーの聖地に着陸して無事地球に帰還、日本はもちろん世界中から絶大な賞賛をいただきました。小惑星イトカワとの往復は50億キロ、4年で帰る予定が7年という長い年月を要しました。



しかし、はやぶさの旅は、最初から重大なトラブルの連続でした。打ち上げ直後には4基あるイオンエンジンの1基の不調が判明、イトカワ着陸前には、姿勢制御装置3台のうち2台が故障。岩石採集装置のトラブル発生で岩石採集不可能、また着陸直後には燃料漏れが原因で通信が断絶。地球との交信が完全に途絶えたはやぶさ本体が長期間にわたって宇宙空間で行方不明の状態となりました。

満身創痍でまったく絶望的な飛行を続けるはやぶさですが、プロジェクトチームは飛行中に起こるであろう数々のトラブルを事前に綿密に予想して、その対策も徹底的に行っていたようです。それでも予測不可能なトラブルが発生しました。しかしわずかな可能性を求めて、プロジェクトチームの大勢の科学者達は決して諦めずに懸命な努力と忍耐と強い信念のおかげで無事帰還を果たしました。

はやぶさの帰還は奇跡です。個人的には、はやぶさには神のご加護があったのではないかと考えてしまいます。プロジェクトチームの強い信念が神のご加護を呼び込んだのだと信じています。私自身も正夢を見たり、不思議な体験をいくつか持っています。科学だけでは説明できないことも沢山経験しています。

はやぶさの帰還に関してはどこのマスコミもあまり熱心に報道しませんでした。しかし、JAXAのホームページをはじめ、個人のホームページやブログ、SNS、ツイッターなどでは今でも書

き込みや動画の再生が大人気です。

このように、はやぶさの帰還は多くの人たちに大きな感動を与えてくれました。暗いニュースばかりが多い昨今ですが、決してあきらめない、継続は力なり、やればできる、奇跡は起こせる！ということを再認識させ、勇気づけてくれました。

我が同窓会も同窓生はもちろん、いろいろな関係の方々の大きなバックアップのおかげで今日まで継続することができました。今年も間もなく総会・懇親会がやってきます。今年も大勢の同窓生が集い、明るく楽しく元気に楽しめるよう、盛り上がるよう、幹事たちは全員力を合わせて連日頑張っています。

今年もまた大勢のご参加をお待ちしております。宜しく願いいたします。

素材の宝庫の中で

能代高等学校校長 第39期 山本 達行

会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。



原稿を書いている6月の能代では、朝晩のさわやかな風と新緑のみずみずしさに心を洗い、山菜に舌鼓をうちながら、この地域の自然の豊かさと季節の恵みに感謝する毎日です。

能代高校では、6月下旬から7月にかけて「暑い」行事の季節になります。梅雨空を吹き飛ばしながら、校内体育大会に始まり能高祭へと、生徒の若いエネルギーと豊かな感性が爆発する期間です。同時に甲子園に向けて、明石に向けて、爆発的な熱気に包まれる時期でもあります。それぞれに厳しい練習を積み重ね、熱く強い心を育ててきた成果を存分に発揮してくれることを期待しています。

今年度の部活動は口惜しい敗北が多く、6月末現在でインターハイ出場者が体操部の2名のみ、東北大会出場者がソフトテニス男子の2ペア、柔道部・空手部・陸上部の各1名で計7名という結

果になりました。団体出場の部がなくやや寂しいものを感じました。

また今春の進路の特徴は、医学科を含めた難関大学やAO・推薦入試に挑戦し合格を勝ち取った生徒が多かったことです。現在のAO・推薦は、明確な目的意識と強い意欲を自ら表現することが求められます。難関大学合格者同様に、迷いや不安に打ち勝って、自らの意志を貫いた生徒たちでした。もう一つの特徴は、都会の有名私大への進学志向が強まっていることが上げられます。私立大が入りやすくなったことが要因と思われませんが、本当にやりたいことが出来る大学へと進むのであれば問題ないと考えています。大切なことは、本人がそこで何を学びたいのか、その大学はそれに十分応えられるかということです。私たちは、学力向上とともに将来の生き方・在り方を重視しており、職業や大学研究を強化しながら、生徒一人ひとりの適切な進路選択を支援していく所存です。

能代高校は、すばらしい素材の宝庫です。この生徒たちの夢の実現に、志の達成に、少しでも寄与できることは私たち教職員の誇りとするところです。私たちの持てる全てを注ぎ込み、素材を磨き、鍛え、次代を担う人材へと育てていきたいと思えます。

ニュートンのりんごの木

能代高校同窓会事務局 第33期 小林 勝平

平成22年4月初旬の事務局会議の日、松谷健事務局長(35期)が浮かない顔で校地内を歩き回っていた。毎月2回、定例の同窓会事務局会議を開いているが、こんなことは初めてだった。



「ニュートンのりんごの木がどこにあるかわからない」と探していた。ニュートンのりんご?私は初耳だったので、「そんな木が学校にあるのか。校地内で実のなっている木なんて見たことがないよ」と応じた。花輪高校に勤務していた当時、教

員住宅がりんご畑に隣接していて、農薬散布のタンク車が来るたびに家内が洗濯物を取り込んでいたので、りんごの葉とか花とかの知識はあるつもりだった。

松谷氏は学校の沿革概要に載っているのに所在不明では困ると言う。手元の「平成20年度学校要覧」を開くと、確かに「平成16. 3. ○理数科設置記念植樹(ニュートンの木)」(注、○はそこだけ日付の記載が空白)と記載されている。

りんごの木の現場確認(?)をしたのは6月2日(水)。その日の事務局会議後、田中仁純同窓会長(25期)さんも現場へ。場所が判明したキッカケは松谷氏が事務室でりんごの木の話をした時、菊地郁生事務長補佐(52期)が「その木ならあそこではないでしょうか」と教えてくれた。菊地氏は昨年、数年前まで本校の黒松剪定を請け負っていた藤田菊夫さんが事務室に立ち寄った時に聞いたという。

ニュートンのりんごの木の場所は自在の像の正面。東京同窓会から平成14年に寄贈された桜と同じ区画に12本植えられていた。ミニりんごの木かと思うほど小さい。花が咲いた様子もない。阿部正博31代校長先生(平成16年3月退職)にお会いした時、ニュートンのりんごの木について伺うと、「たしか2月頃苗木をいただいた。しかし植樹する時期ではないと言われ、植樹には立ち会っていない」という。田中同窓会長さんは、「たしか植木業の杉澤徹氏(40期)が植樹したはずだ。昨日風の松原で会ったばかりなので、あとで確かめてみよう」と言って、ニュートンのりんごを本校に植樹することになったいきさつを話してくれた。紙面の分量と調査確認不足のため詳細は別の機会に譲る。

自在の像の正面は昔の通学路上。路面が固いはずなので、何メートル掘り下げて土を耕してから植樹したか不明。12本の間隔も狭い。工藤直樹事務長さん(40期)は、出来れば来年度、場所を変え、間隔をあけて植え直したいと話していた。

(平成22年6月30日記)

*りんごの木の写真を表紙に掲載いたしました。

※※※※ 同窓生インタビュー ※※※※

南極越冬隊長 工藤栄さん(第51期)

俺の出番！南極にはまだまだ未知の不思議がある



現在、第51次南極越冬隊の隊長をつとめている工藤栄さんにインタビューすることができました。東京同窓会のみなさんから募った質問を南極の工藤さんへメールで送り、ていねいで楽しい回答をいただきました。

くどう さかえ

1963年生まれ。山本中学校出身。筑波大学第二学群生物学類卒。東京大学大学院理学研究植物学専攻で修士課程修了。現在、国立極地研究所の北極圏環境研究センターの研究教育系准教授。北極での仕事を経て南極観測・研究に越冬隊や夏隊で携わり、第51次越冬隊では隊長として2011年3月まで従事する。

秋田県出身南極越冬隊員の南極ブログ通信：

<http://www.akt.co.jp/akt-blog/adiary.cgi/nankyoku/>

Q 高校時代までにめざしていた職業は？

A それまでに2度ほど水に溺れた経験があるのだが、確か幼稚園前のころ、海でカニを追いかけ、転落、その時水中から空がきれいに見えたことを記憶しているのだ。その印象もあったし、水の中の不思議生物に面白さを感じていたこと、釣りが好きだったことで、水の中の生き物相手の仕事がしたいなあ、と思っていました。クスターのような水中探検家、SF「海底二万マイル」のネモ船長みたいなことは小学校時代にちょっと憧れをもっていた気がします。どうやればなれるんだか、そんなんで生きてゆけるのか、想像もできなかつ

たけどね。高校時代になると、ちょっと現実的に？生物学を極めてみようかな（どうやればいいかは依然として不明のまま）？みたいなことを意識してましたっけ、ねえ。

Q どんなきっかけで南極に惹かれたのですか。

A 北極での仕事、外国との国際共同研究が一段落したと自分で勝手に自分の中で終止符を打って、南極へ向かいました。極地研究所は日本の南極観測の中核機関で、たまたま配属部署が北極関係でしたので、それまで南極に関してはそんな研究所の中にも、正直、不思議なぐらいあんまり興味がなかったんですよ。北極の氷河の脇やフィヨルドに浮かぶ島に咲き乱れるお花畑、そんな中で研究に取り組むことも面白かったわけで。ですが、北極にはいろんな国の領土があってヒトの交流もある意味盛ん、先人たちあるいは地元の人たちが一生懸命に取り組んできた実績もあって、日本からわざわざ出かけて仕事をするには、どうしても大したことができないような力不足みたいなことを感じてしまってもいたんです。そこで、「もは

や私は北極の科学に関しては、君たちに任せました！私が出る幕なし！」としちゃいました。

そんなとき、南極の湖の中に、これまでの想像を絶するような生き物社会が構築されているって、観測隊の発見があったんです。こいつに惹かれて、水の中の仕事なら、俺の出番！と出動しました。南極にはまだまだ未知の不思議が、ほかのだれも気付いていないことがたくさんある、よし、と取り組みました。

Q 吹雪などもあるのでしょうか？そんなときの観測のご苦労は？

A たぶん吹雪（ブリザード）のレベルが、いくら地吹雪の幻の楼閣を経験した「ショウリョウケンジ」といえど想像できない、想像の範囲を超えた物です。昭和基地では隊長がその規模によって外出注意・外出禁止令を発令し、建物からの外出を厳しく制限します。かつて第4次隊で1名の隊員がこのブリザードによって基地の目の前で遭難し、7年後に死体が発見された、という事故がありました。この事故の後そんな決まりを設けて、事故防止に努めています。自然の猛威の前には戦いを挑んではいけません。ただ、旅行の途中でどうしてもこんな状態に遭遇してしまうこともあります。視界が全く効かず、足元の轍を何とかたどって基地に帰りついたということもあります。

Q 南極でいちばん恐怖に感じたことは？

A 基地へ戻る途中で遭遇したブリザードによるホワイトアウトかな？本当にどっちに向かって進んでいるのか全く方向感覚をつかむことができず、かといって海の氷の上でとどまるわけにもいかず（いてもよかったかもしれないけど）ってことになったことがある。吹き付けるブリザードの中を雪上車から降りてルートを探して誘導したり、結構大変だった。

Q 基地にいても外部の情報に不自由なく接することができるのでしょうか。

A 現在ではインターネット常時接続ができていますので、このへんに不自由さはないと思います。離れているとどうしても日本の情報に恋い焦がれてしまう人が多いせいなのか、日本にいる時よりも、隊員たちは日本の国内事情に精通しているような気がします。11年前、まだインターネット

接続されていなかった頃、日本では「おかあさんといっしょ」のあゆみおねえさんと「だんご3兄弟」というものが流行しているらしい、という噂が昭和基地内にまん延。隊員のだれかが持てる能力を駆使して彼女の写真を入手、曲をメールにのせて送信してもらい、「おお、なんでこんな曲が流行しているんだ？」と言いながら聞いていたこともありましたなあ。

Q 工藤さんと同期生の三浦基英さんから差し入れの日本酒があるようですが、他に基地内ではどのようなお酒が飲まれているのでしょうか。

A 私のように各自好みのお酒をもらってきたり購入してきたりしていますし、全体でビール・日本酒・焼酎（含む泡盛）・ワイン、バーで使用するジン・ラム・ウオッカ・ウイスキーのほか各種カクテル材料…ひととおりになんでもあって感じます。

Q 基地に長期滞在していると、何が一番不足していると感じますか。

A 愛かなあ…。

Q 南極で学んだ教訓は何ですか。

A 自然に戦いを挑んではいけないこと、かな？自然の振る舞いを感じながら、そのなかでうまく自分を調和させ生かしていくような臨機応変の行動をとっていかなきゃいけないってこと。（おお、かっこいい！）

Q 同窓会員へメッセージをお願いします。

A 不肖、工藤栄、隊員一同を率いて元気に南極の地を駆け回ってまいります。隊員みんなそれぞれが、ここ南極で活動を共にしたことを、それぞれの人生の中の輝きをもった経験と記憶として日本へ帰ることができるよう、努力していきたいなあ、と思うのです。皆さんもおんなじ自分の人生の中の一年を過ごすのなら、面白いものにしていった方が、過ごしがいがあると思えるはず。その人なりの面白さを追求し、ご活躍なさることを祈念しております。

~~~~~  
**Q & Aはまだまだたっぷりあります。ここで未掲載のお話は東京同窓会ホームページで公開します。**  
<http://shoryokenji.web.fc2.com/>  
 ~~~~~

** 恩師に聞く **

夢を持つ者は学ぶことを怠らない 藤原六郎先生

1973年(昭和48年)4月から79年3月まで数学科教師として在籍された藤原六郎先生に、能代高校の思い出や近況をご寄稿いただきました。先生は現在、湯沢市にお住まいです。



◆山から海へ～能代高校との出会い

私が生まれ育った湯沢は、四方が山(出羽丘陵と奥羽山脈)に囲まれた盆地ですから、子供の頃から山の向こうにあるだろう海に憧れを抱いていました。海岸部で生活してみたくて希望したところ、幸運にも能代高校に勤務することができました。能代は、全く見知らぬ土地で不安を抱いたままの着任でしたが、能代の皆様から身にあまるご好意とご支援を頂き、大変充実した生活を送らせていただきました。心から感謝申し上げます。

◆新校舎、十里強歩、甲子園

樽子山の旧校舎は、数えきれない青春の思い出を残して使命を終え、新校舎は高埦の地に移りました。これを契機にして、これまで培ってきた伝統に加え、「新たな伝統を築こう」を合言葉に、学校全体が燃えた時期でした。

三十代の私は未熟で恥ずかしげもなく気力をたぎらせ、生徒とがっぷり組み合って若さを爆発させていました。教えることに確かな手応えを感じ充実した日々を送ることが出来たことは、素晴らしい生徒達との出会いがあったからであり、正に教師冥利に尽きると思っています。

生徒と一緒に歩いた強歩大会。時には満点の星を仰ぎ、また、小雨の中の辛い体験も忘れられません。甲子園球場に連れて行ってくれた硬式野球部の諸君、ありがとう。テレビの観戦と違って、アルプススタンドで直に感じる独特の熱気に圧倒されました。すべてなつかしい思い出として深く心に残っています。

◆能代の海に遊ぶ

風の松原…当時はこんなステキなネーミングはなかったと思います。海岸に通じる広い道がありましたが、小道が迷路のように何本も四方八方に

のびており、散策には絶好の場所でした。よく家族で自転車をこぎ、夕日を見に行ったものです。故郷の夕日は山肌を赤く染めながら山に沈んでいきました。能代の海辺で見る夕日は、海に沈む寸前があまりにも大きく、そして、燃えるような輝きに圧倒され、沈みきるまで眺めたものでした。

五能線沿いの海岸線はすばらしく、心が洗われる思いでした。展望のきいた広場には、イカの一匹干しをご馳走してくれるお店があって、磯のおりと焼きたての味は忘れられません。

◆大事にしたい教え

今、日本そして世界各国には、政治・経済・環境等々、むずかしい問題が山積しており、明るい展望がもてそうにない状況です。しかしながら、人類は英知を出しあって、困難を克服しながら今日のすばらしい文明社会を築きあげてきたのです。どんな時代でも、明るい未来だけが見える世界はないのだから、若い諸君は将来をしっかり見据えて、自己研鑽に励んでください。私が大事にしたい教えに「夢を持つ者は学ぶことを怠らない」という言葉があります。年齢に関係なく生きている言葉です。

能代高校は地域の中心校であるゆえ、諸君に寄せる期待感も高くかつ重く感じます。地域の優者に甘んじることなく、グローバル社会の旗手として、自信と誇りをもって世界に飛雄できる人材に育ててほしいと願っております。

◆野菜作りは子育てと同じ

昨年、中学校同期が集い「古希」の祝いをしました。もう70歳です。退職後2年間は、県教育委員会からスクールアドバイザーを命ぜられ、地域の小・中・高等学校を訪問しました。小・中・高の連携を通して地域全体を「点」から「面」として捉え、子供の理解をより一層深めることをねらいとしておりました。小・中学校の先生方と交流ができ、多くのことを学ばせていただきました。

数年前には、家庭菜園を始めました。大地と格闘しながら、野菜作りに精を出しています。野菜は愛情をかければかけた分、ちゃんと応えてくれます。「野菜作りは子育てと同じだ」と言いますが、同感です。俄か雨にうたれ泥まみれになることがあっても、大自然に癒され心身共に健康であることに感謝しながら、多忙な毎日を送っております。

能代高校だより 部活なう! 在校生の活躍がりをお伝えします

ARDFと出会って

能代高校 無線部部长 田代瑞葉(3年B組)

私は中学生の頃から、能代高校へ入学したら無線部に入ろうと決めていた。新聞記事や兄の文集で無線部の活動を知り、初めて聞くARDFという競技に興味を持ったからだ。ARDFとは、一周6~8キロメートルくらいの競技エリア(遊歩道のある山など)に、順番に電波を発する5個の発信器を隠し、競技者受信機や競技用の地図、方位磁石を駆使し、それらを見つけていくという、言わば電波を使ったオリエンテーリングのような競技である。入部して実際にやってみると、音の強弱で電波の出ている方向を見きわめるのだが、なかなか難しく熟練を要するものだとわかった。同時に、機械を使いこなす先輩のかっこ良さに、早く上手になりたいと意気込み、練習に励んだ。

ARDFの魅力はたくさんある。一人で森の中に入って行くとき、怖くて戻ろうかと思うこともある。自分は右だと思ったのに他の選手が皆左へ行ってしまうと、自信がなくなりついて行きなくなる。しかしそんな不安を振り切って進んだ先に発信機を見つけたときには、たとえようもないほどの喜びと達成感に包まれる。自分を信じて本当に良かったと心から思える。

また、大会に集まった幅広い年齢層の人たちと交流をもつことができるのも楽しみの一つだ。無線部に入ったおかげで、自分の世界がどんどん広がっていくのを実感している。

ARDFを通して、私は幾度となく自分の成長を感じることができた。さらに活動を深めていきたい。今の目標は、ARDFの楽しさ、奥深さを後輩たちに伝えることだ。

[注] ARDFはAmateur Radio Direction Findingの略。



2009年全国高校ARDF競技大会表彰式。女子個人優勝の田代瑞葉さんと3位の藤田舞さん

能代カップに参加して

能代高校 女子バスケットボール部

キャプテン 大高奈都美(3年C組)

マネージャー 工藤瞳子(3年B組)

5月3、4、5日の3日間行われた「能代カップ」では、岩手県の盛岡白百合高校とメインコートで試合をしました。相手は岩手県1位のチームで、インターハイの常連校です。

試合は始まりから終わりまできついディフェンスを崩すことができず、確実に点数が取れるようなオフェンスをさせてもらえませんでした。私たちとはレベルの違うチームではありましたが、手を抜かずに全力で戦ってくれ、また、私たちがたくさんさんのプレーを学ぶことができました。

試合を観にきてくれた地元のお客さんも最後まで見守って、あたたかい拍手を送ってくれたのは、とても嬉しかったです。

女子バスケット部では、普段の練習から試合前の調整まで、監督やコーチに助言をもらいながら、自分たちで練習メニューを考え、話し合って練習を進めていきます。このような主体的な活動は自分たち自身のなかだけでなく、様々な場面で行われています。地域の大会にボランティアとして参加したり、中学生の練習に協力したりと、バスケットを通してたくさんの人と関わり、あいさつや礼儀も含め、多くのことを学んでいます。

部活動に昇格してさらに恵まれた環境で練習できることになりましたが、バスケットができることを当たり前だと思わず、常に感謝の気持ちを忘れずに活動していきたいと思っています。

[注]女子バスケット部は平成20年度に同好会から部に「昇格」し、全県大会等で活躍しています。



能代カップでの試合(2010年5月3日、能代市総合体育館)

平成22年度 能代高校東京同窓会総会・懇親会のご案内

【日時】平成22年10月17日(日)

受付 12:00～

総会 12:20～

講演会 13:00～

懇親会 13:40～16:00

【会場】アルカディア市ヶ谷 3階 富士の間

JR、地下鉄(有楽町線、南北線、都営新宿線)

市ヶ谷駅より徒歩3分

千代田区九段北4-2-25

電話 03-3261-9921

<http://www.arcadia-jp.org/>

【年会費】3,000円(1世帯)

*卒業年次による免除や割引はありません

*2010年の新卒者は本年のみ年会費1,000円
(卒業時に2,000円を本部同窓会に納入済のため)

【懇親会費】男性7,000円 女性6,000円

*割引制度や特例があります(下記参照)。

*3階・会場前の受付でお名前をおうかがいし、
会費・懇親会費をお預かりします。

【出欠】同封のはがきは9月26日(日)までに
投函ください。ホームページでも受け付けます。

<http://shoryokenji.web.fc2.com/>

講演会

演題「DOWA が取り組む資源循環型社会の実現へ」

講師：大塚晃さん(第46期)

かつて同和鉱業は秋田県北に複数の鉱山を所有し、
鉱山・非鉄製錬業で一時代を築いたものの、
円高で昭和60年代に日本の鉱山は次々と閉山。
その後世界的な鉱物資源確保のリスクが多大に。
現在DOWAとして取り組んでいる「都市鉱山」と
言われるリサイクル事業による循環型社会実現に
ついてお話しいただきます。



DOWA エレクトロニクス株式会
社社長

昭和32年能代市生まれ。

能代第一中学校出身。東北大学工
学部卒業。昭和60年、同和鉱業
株式会社入社。平成20年DOWA
エレクトロニクスの代表取締役任
就任、現在に至る。



【懇親会費の割引・特例】男性7,000円 女性6,000円から、以下のとおり差し引きます。

- 1) 初参加割引 総会・懇親会に初参加の同窓生は 3,000円引 ★1～3は重複可
- 2) 若者割引 59期生以降の同窓生は 3,000円引 (来年は60期生以降が対象です)
- 3) 先輩割引 24期以前の同窓生は 3,000円引 (来年は25期生以前が対象です)
- 4) 学生割引 同窓生でまだ学生の方は 懇親会費を免除(年齢不問)
- 5) 新卒者の特例 今年2010年に卒業の同窓生は 懇親会費を免除
- 6) 家族の参加者 同窓生の家族の参加者は 3,000円のお支払いで参加できます(中学生以上)
- 7) 友人の参加者 東京同窓生以外の参加者は 5,000円のお支払いで参加できます

★先輩割引を新設しました。

★健康が不安という方もご家族やご友人と一緒にご参加ください。

★家族の方に同窓会の雰囲気を見せてあげたい方もどうぞお連れください。小学生以下無料です。

平成21年度総会・懇親会の出席者(敬称略)

【19期】小林 肇(能代)【23期】矢口 裕(二中)【24期】山縣輝輔(二中)、小山黎子(二中)【25期】畠 豊彦(一中)、那須秋男(一中)、佐々木胤麿(東雲)、岡部 忠(二中)【26期】畠山信孝(鶴川)、八柳昭義(二中)、板倉富弥(下岩川)【27期】後藤信義(八森)、檜森 寛(鶴川)、石嶋喜直(岩館)、大村真陸郎(浜口)、佐藤 斎(二中)【28期】石川輔宏(二中)【29期】太田勝治(鹿渡)、石川正順(森岳)、関根市男(一中)、宮腰興紀(一中)、清水武久(田代)、宮腰瑞夫(一中)、塚本祝永(二中)、鈴木元紀(二中)【30期】藤田道義(二中)、宮腰 忠(一中)、田村正宏(一中)【31期】馬場富男(二中)、高松和夫(金岡)、大倉報三(常盤)、熊谷博雄(二中)【32期】高田政勝(一中)、高谷 誠(深浦)、森 喬夫(一中)、高橋邦治(二中)、野呂田正一*(二中)【34期】庄内 正(東雲)、西川廣正(東雲)、畠山 昇(浜口)、長岡忠光(檜山)【35期】干場革治(八森)、横田真理子(一中)、石山 眞(二ツ井)、高松睦夫(金岡)【36期】深井 学(東雲)、大山金士郎(鶴川)、加藤和海(一中)【37期】工藤広悦*(二中)、若狭秀己(森岳)、新堀益夫(金岡)【38期】豊嶋 誠(檜山)、市川正敏(二中)、新堀勝男*(東雲)、成田正廣(二中)、佐藤能雅*(東雲)、袴田忠夫*(二中)、赤塚 剛(一中)、畑沢鉄三*(鶴川)、岩谷憲一(一中)【39期】菅原 渉(下岩川)、大塚 進(二中)、福原秀就*(二中)、熊谷一美(岩崎)【40期】智田 農(富根)、小林 哲(東能代)【41期】小河範也(二中)【42期】加藤正人(一中)【43期】福岡 武(二ツ井)、工藤富雄*(八森)、松尾一彦*(八森)、五代儀彦秀*(鷹巣)、大塚和博(二ツ井)、須藤正喜(八森)、渡辺博栄(琴丘)、石塚信一*(一中)、高橋正弥*(一中)、菊池忠夫(藤里)、佐藤悌弘(二ツ井)、小林 彰(東能代)【44期】庄内俊憲(八森)、宮城伸一郎*(一中)、市川善光*(藤里)【45期】袴田邦夫(二中)、真崎 裕(二中)、三浦 洋(森岳)、大塚雄蔵(二中)、金谷 哲(一中)、鎌田泰宏(二中)【46期】石井 喬(二中)、斉藤靖雄(沢目)、吉田真由美(一中)、佐々木 恵*(鶴川)、秋林泰樹(二ツ井)【47期】和平忠幸(八森)、野村一哉*(二中)、平川 均(一中)【48期】北林蒔子(一中)、竹内 勉(一中)、野島美季子(一中)、相川文治*(二中)【49期】片谷浩之(二中)、田村盛仁(二中)、松永京子(二中)、大塚聡子(一中)【50期】石井鉄美*(一中)【51期】袴田 亘(二中)、河田康史(檜山)、高橋俊博*(山本)【53期】梶原禎子(八竜)、吉田 順(一中)【54期】佐藤篤規(二中)、遠藤いぶき*(東能代)、横山桂子*(東能代)【55期】淡路和子(一中)、嶋田久美子*(常盤)【59期】棚橋さゆり(一中)【60期】安井正彦*(二ツ井)、伊藤弘基*(鷹巣)【62期】大高忠勉(峰浜)【67期】小野 立(一中)【73期】北林 悟*(二中)【79期】佐藤京介*(東雲)、加藤 源*(山本)、三上友里菜*(二中)、吉田拓洋*(鷹巣)、五十棲正*(東雲)、加藤健輔*(東雲)、渡辺健太*(能代南)

◇以上会員参加者 129名(名前の後ろに*マーク付きの人は21年度の初参加者 32名)

◎家族 5名 ◎来賓 16名 以上参加者総数 150名

★残念ながら当日ドタキャンの人が9名(上記名前以外)おりました。今年は是非参加してください。

平成21年度総会 都合が悪く欠席しますと回答いただいた方(敬称略)

【8期】星 信勝【14期】宮原茂悦【18期】塩谷昭二郎【19期】金子隆太郎、鈴木良夫、五十嵐嘉久弥【20期】大淵利夫、大塚二三夫、五十嵐博和、小野 喬、金谷芳郎、塩谷隆二【21期】小野 茂、五十嵐資和【22期】塚本忠志、安井浩一、町田長男、日下部芳孝、田中克芳、伊藤久義、大谷 昭、仙台鐵也、村井克自【23期】設楽義雄【24期】金野哲夫、梶原義實、智田稔、今村宏司、畑江道弘、大塚昭夫、松坂タカシ、佐藤正名、河合雅子、田村弘忠、蓮沼旬、中島正美、木村喜作、泉 進、豊田 誠、加賀 賢、平川了禎、栗生沢浄【25期】栗原俊一、町田次男、北島茂、小貫 實、三浦仙雄、民谷恒二、工藤尊久【26期】宮腰英弥、板垣金治郎、佐々木弘高、神山正子、原田力次、瀧川宗重、佐々木高博、野呂文雄、佐々木章、吉井源太郎【27期】栗原優子、田中郁三、斎藤秀夫、山田邦夫【28期】松橋誠喜、宮腰義昭、須田正巳、野口照夫、穴山勝良、平塚平三郎、珍田弥一郎、中村敦美【29期】大高一益、佐藤芙美恵、糟谷 愛、中田龍一、山崎 武、大高幸夫、蓼沼正紀、笹木広澄、下間弘道【30期】熊谷幸夫、米川朋生、佐藤関夫、山本正樹、今立 駿、阿波野紘一、宮腰七郎【31期】長岡満夫、佐藤碩昭、佐藤昭夫、川村 稔【32期】札木さつ、吉岡良隆、奈良勝夫、橋本 恵、能上敏夫、浅利 革、田中正敏、笠原 強、菅 紀夫、松橋 厚【33期】工藤正久、梅田行雄、太田謙一、太田 進、塚本幸長、石原恵美子、金田英成、児玉正彦、関根徳政【35期】加賀亮司、平川隆夫、岸部政隆、金子永喜、恩田恒美、加藤 実、枡 修、唐澤好夫(山内)【36期】細田静夫、武田忠克【37期】加茂谷純一、高橋ヒサ子、田村幸二、小野津世子、今野廣隆【38期】金野正道、佐藤春香、工藤 巧【39期】住吉修平、菊地敏夫、土田一夫、多賀谷明、木村行雄、野上典男、諸沢隆一、金野峻明【40期】熊澤朝子、高橋博美【41期】伊藤千恵、正木修一、市川廣美、高田 仁【42期】佐藤行信、中村幸子、工藤俊一【43期】幸坂和彦【44期】武石栄伸、武田 隆、橋本周平【45期】平野信任、河田昌俊、高松武史【47期】飯坂尚登【50期】宮腰宏幸【51期】武田正晴、萬寶通子、安田 勉、平塚征悦、平塚佐智子、佐々木英貴、川口行彦、鶴谷則子【52期】井瀧正彦【55期】松尾靖史、伊藤広一、佐藤 正【60期】窪田千尋、青山文大、柴田真人、大柄大輔、山口美幸、迎 菜由子【65期】石山陽一

平成21年度総会 転居先不明で案内状が戻ってきた方(敬称略)

★このままですと名簿から削除せざるを得ませんので新しい連絡先をご存知の方は事務局までお知らせください。

【18期】嶋田福太郎、石山 明【20期】進藤 昇【26期】大越 巖【30期】山本義馬、金子 徹、若林剛造【31期】柴田光夫、嶋田正雄【32期】工藤長成【35期】佐々木正男、袴田 職、吉行勝博【36期】大山憲夫【37期】堀内利人、佐々木 保【39期】袴田勇治、笹原則雄、佐藤富夫【42期】清水 隆【43期】篠内 暁、矢崎敦子、武田耕造、若井道昭【44期】楊 国昌【46期】桜田 稔【50期】滝川宗仁【51期】井手一洋、梅田知宏、稲田和博、小松 幹【55期】斉藤 功、有川純子、西巻武輝【60期】越後谷和広、保坂 良【65期】亀川 匡、石川鯛子、青木 環、山口範人、松岡慎吾、工藤 忍【75期】小松佳徳【78期】金子賢明

平成21年度 総会・懇親会のご報告

特別企画 樽子山が生んだスーパーアーティスト

出演 五代儀彦秀、松尾一彦、宮城伸一郎、市川善光

平成21年の総会では特別企画のトーク&ライブを催し、ミュージシャンとして活躍する同窓生をゲストに迎えました。五代儀彦秀さんに進行役をお願いして、能代高校時代の思い出や音楽活動の逸話などを語っていただき、最後には演奏も披露されました。その一部をご紹介します。



♪いつもギターを弾いていた高校時代

五代儀：松尾さんは教室でもよくギターを弾いていて、当時はやっていたギルバート・オサリヴァンとかの曲を歌ってたよね。

松尾：五代儀さんもドラマーだけど、ギタリストが嫌がるぐらいギターが上手なんだよ。

宮城：僕は、なかなか手に入らなかったエレキギターを松尾さんに借りたことがある。お礼を言ったら「これも借り物なんだよ」と(笑)。

市川：ギター部では宮城が部長で、私が一般庶民でした。彼はまじめでしたけど、音楽をやるとおもしろいやつだとわかったんですよ。

五代儀：「音楽しかない」と思っていましたか。

松尾：中学に入った頃から音楽家になりたいと思って、高校にも行かずに東京へ出て音楽をやりたいんですけど、先生に「なに考えてんだ」と怒られた。なぜだめなんだろうと、その頃は思ったけど、高校に行ってもよかったと思います。

市川：僕は学校の先生になりたかったんですよ。人に説教たれるのが大好きなもんですから(笑)。

宮城：どうしてもエレキギターが欲しくて、高校2年のとき一人で夜行に乗って東京まで買いにきたんです。それを持って帰って、1週間ぐらい布団の中に入れて一緒に寝てたんです。そのとき、俺はもうこれ(音楽)だろうなと思いました。

♪この人のおかげでプロになることができた

五代儀：プロになるきっかけとなった人は？

松尾：僕の年代は、ビートルズじゃないですか。あの頃ビートルズというと、しかめっ面する大人が多かったけど、いろいろな人が影響を受けて、いろいろな仕事をしてくるわけですから。

宮城：僕は、そのビートルズを聴いて育った財津和夫さん(チューリップのリーダー)ですね。僕は大学1年の春休みにアルバイトでとんぼちゃんのツアーの付き人をやったんです。そのとき、ある方の紹介でオーディションを受けないかと言われて、財津さんがそのオーディションの審査員でした。それがきっかけでプロになったんです。

松尾：宮城は偉いよね、財津さんの名前を出して。俺は小田和正さん(オフコースのリーダー)の名前を言わないもんね(笑)。小田さんもすばらしい人ですよ！

市川：僕の場合は吉田拓郎です。拓郎の影響で、自分で曲を作りはじめた。それまで僕はほとんど

歌わなかったんですが、曲を作るようになったら歌うのが楽しくなってきた。

五代儀：売れっ子になって、ふるさとや昔の友だちを忘れることはありませんでしたか。

松尾：忘れることはなかったんですけど、オフコースのコンサート・ツアーで秋田に行ったときに友だちに会うとか、当時はそのぐらいでした。

宮城：チューリップのツアーで秋田に行ったときは、同級生が観に来てくれましたね。親が能代に住んでいたから毎年帰っていましたけど、若い頃は、なんて遠いところなんだと思ってた地元も、30歳を過ぎてから最高だと思うようになってきた。釣りを始めたからなんだけど。ああいう自然が残っているところに自分の実家があるというだけで幸せだと思うようになったんです。

市川：とんぼちゃんはギター2本あればどこでも行けたので、年間250本ぐらい全国ツアーをやっていました。自然のあるところも、能代よりもっと小さい町にも。なかなか田舎に帰ることはないんですが、自然の景色を見ると心が豊かになります。

トークのあと次の4曲を生演奏し、この日かぎりの共演で感動的に幕を閉じました。

♪夜も昼も(コール・ポーター作のスタンダード曲を松尾さんの弾き語りで)

♪サボテンの花(チューリップの名曲を宮城さんのボーカルで。松尾さんもギターで参加)

♪ひと足遅れの春(市川さんのボーカルで、とんぼちゃんのヒット曲を4人で演奏)

♪心の旅(チューリップの代表曲を4人で演奏。リードボーカルは五代儀さん→宮城さん→松尾さんのリレー)

五代儀彦秀 いよぎひこひで (第43期)

ドラマーとして寺尾聰、久保田早紀、中村雅俊、来生たかお、かまやつひろし、ふきのとう等のバックに参加。現在、音楽制作や小林亜星のマネジメント等を手がけるアストロミュージック出版株式会社の代表取締役プロデューサー。



<http://www.remus.dti.ne.jp/~astro/>

松尾一彦 まつおかずひこ (第43期)

1974年ジャネットのギタリストとしてデビュー。76年オフコースに加入。89年の解散後、ソロやユニットで活動を続ける。2010年のライブ・ツアー後を9月18日の大阪公演から開始。



<http://www.gallery-untitled.com/>

宮城伸一郎 みやぎしんいちろう (第44期)

1975年がむがむのベース兼ボーカリストとしてデビュー。80年チューリップに加入。2008年よりソロ活動。2010年10月9日の東京公演から全国4カ所のライブ・ツアーを開始する。



<http://www.shinichromiyagi.net/>

市川善光 いちかわよしみつ (第44期)

高校時代に伊藤豊昇さんとともにとんぼちゃんを結成し1974年デビュー(のちに「とんぼ」と改名)。愛称はヨンボ。82年解散。2008年に音楽活動を再開。2010年11月6日の東京公演以降、各地でライブを行なう。 <http://yonbo-df.com/>



*写真は平成21年10月18日(日)、アルカディア市ヶ谷富士の間で開催した総会・懇親会より。この日の写真集は東京同窓会ホームページからもご覧になれます。 <http://shoryokenji.web.fc2.com/>

東京同窓会の 同好会が増えました

東京同窓会には、同窓生のさらなる親睦のために同好会があります。2010年に新しく発足した会、および活動内容に変更のある会に自己紹介していただきました。これらの会の担当者に連絡を取りたい人や、新たな同好会の提案や希望がある人は、事務局宛にご連絡ください。

連絡先メールアドレス(東京同窓会事務局):
shoryo-tokyo-01@live.jp

◇能高バスケの会

「能代」と言えば「バスケット」、「バスケット」と言えば「能代工業」と世の中では言われていますが、能代高校にだってバスケット部はあるし、バスケ好きは多いし、国内で活躍する能代工業OBと同期や先輩、後輩が多数存在することは間違いありません(山本浩二、小野秀二、内海知秀、加藤三彦、田臥勇太ほか多数)。

このような環境のもと、能代高校東京同窓会幹事会の後押しを受け、2010年5月3日にスタートしました。この日は、記念すべき能代高校女子バスケット部が能代カップに出場したおめでたい日です。

本同好会は、能代カップやウインターカップ、日本リーグやbjリーグ(日本プロバスケットボールリーグ)観戦、観戦後の掲示板への掲載、本校バスケット部やバスケット部OB会との交流

などによる情報交換を通じて、同窓生のコミュニケーションが活性化し、東京同窓会が更に盛り上がることを期待しております。

たくさんの方々が現れることを期待しております。

代表者:片谷浩之(第49期)

◇棋聖会

囲碁・将棋の同好会「棋聖会(きせいかい)」を準備中です。同窓生のプロフィールをみますと、趣味として「囲碁」「将棋」をあげている同窓生が沢山おります。初心者で興味がある程度だよと言う人から高段位を持つ人までまさに様々です。総会で顔を合わせるたびに「まだ同好会できないの?」と聞く先輩が何人かいて「では会長をお願いできますか」とお願いすると、とたんに「高血圧が…」「体調が…」と、なかなか具体化できないでございました。今年の総会でも同じ会話になりそうなことから「まずは走り出してみよう」とのスタートです。取り敢えずは集まれる人で、年に3~4回程度、土・日の午後開催を想定しております。

第30回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会(東京開催)には本校からも3名出場するなど、素晴らしい活躍の後輩も沢山いる様ですので、若い人たちも参加してもらいながら、楽しい会にしていきたいと思っております。

代表者:菅原渉(第39期)

◇能高五日会

会の目的は、同窓会参加率の少ない20代、30代の仲間を増やすことです。

秋田から上京し、現場の最前線で頑張っている20~40代の同窓生の交流を深められるよう、新年会、花見会など年に5~6回イベントを行っております。

これまで五日会に参加頂いた方は70名くらいですが、更に若手を募るために楽しい企画も検討中です。

また、いろいろな業種の同窓生がいらっしゃいますので、時には相談に乗っていただけることもあり、助かっています。

御徒町で同窓生に会える店

ふぐ・季節料理

きくち

第43期 菊池忠夫



〒110-0005

東京都台東区上野 6-6-4 デュークビル 1F

JR 御徒町駅より歩いて3分位

電話 03-3839-3382

e-mail: fugu-kikuchi@mrg.biglobe.ne.jp

白神山地(藤里町)出身

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~fugu-ki/>

<http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/g2kikuchi.html>



4月9日、
五日会の
「花見会」
にて

50歳未満の方であれば、どなたでもご参加可能です。ぜひ、先輩・後輩・同期との交流の場にご利用ください。

代表者：大高忠勉（第62期）

◇能高六日会

五日会を卒業した年次（比較的わけもの）で構成する会を、六日会としました。

代表者：石井喬（第46期）

以下、既存の会について基本情報を掲載します。

◇樽子山会

樽子山を卒業した世代が各期を越えて参集し懇談します。

代表者：畠豊彦（第25期）

◇能球会

年2～3回、東京近郊のコースでゴルフを楽しむ

みます。

代表者：石井喬（第46期）

◇能高釣クラブ

自然を満喫しながら渓流釣を楽しみ、昼はバーベキュー、夕方は温泉で疲れを癒します。

代表者：小河範也（第41期）

◇東京探訪の会

年2回、日常あまり触れることのない「東京」を訪ね、約2時間のコースを散策します。

代表者：吉田真由美（第46期）

新橋で同窓生に会える店

《お昼には麦とろろご飯に
焼ぎ魚か煮魚が一品ついたら定食が人気!》

おいしい酒
と肴の店 **新橋「和作」**

第36期 加藤和海(能代市新柳町出身)

新橋駅前ビル1号館
(蒸気機関車の反対側の駅ビル1階)

TEL 03-3575-1756



能代高校同窓会・各支部のご紹介

本部と各支部の所在地をご紹介します（2009年10月15日現在の情報）。

	名称	所在地（連絡先）		会長・支部長	期
本部	能代高校同窓会	016-0184	能代市高埕 2-1 能代高等学校内	田中 仁純	25
支部	秋田支部	010-0976	秋田市八橋南 2-10-16 農協ビル 6階 柴田・加賀法律事務所内	加賀 勝己	30
	県庁能高会	010-8570	秋田市山王 4-1-1 秋田県庁 秋田県 医師確保対策推進室 佐藤徹	森田新一郎	40
	大館支部	017-0844	大館市新町 10	西村 銀三	14
	八竜支部	018-2401	三種町鶴川字昼寝下 67-1	岩谷 隆	31
	鷹巣阿仁支部	018-3322	北秋田市住吉町 8-27 田中三夫	(まもなく決定)	
	二ツ井支部	018-3119	能代市二ツ井薄井 58 秋林俊明	豊沢 幸夫	20
	藤里町松陵会	018-3203	藤里町大沢字館の下 21-8	石田 洋三	27
	北海道支部	064-0804	札幌市中央区南 4条西 6-11-2 全日ビル 7階 (株)雪研スノーイーターズ内 大槻政哉	菊地 晃二	27
	青森支部	030-0966	青森市花園 1-27-18	原田 和夫	26
	松陵津軽会	038-2202	深浦町岩崎字玉坂 10-3	七戸 仁	47
	近畿同窓会	655-0002	神戸市垂水区小東山 5-6-7	平川 長	29

** 会員だより **

護衛艦「ゆうばり」の思い出

第38期 袴田 忠夫

私は、昭和49年に広島県の江田島市にありま
す海上自衛隊幹部候補生学校を卒業してから35
年間船乗りとして勤務し、約3年前に海上自衛隊
を退職、現在は三菱電機に勤めています。船乗り
として最も思い出深いのが、平成2年に、護衛艦
「ゆうばり」艦長として能代港に入港したこと
であります。

おりしも、この会報への寄稿原稿を会報委員の
吉田真由美さんに頼まれた6月25日は、「ゆう
ばり」の除籍行事のため青森県の大湊に出張して
おり、これも何かの縁かと思いこのタイトルで寄
稿を引き受けた次第です。

旧海軍時代から、船乗りとして艦長になるのは
誰にとっても最も名誉なことであり、私も勇躍、
大湊所属の第35護衛隊「ゆうばり」艦長に平成
2年3月に着任しました。「ゆうばり」という艦
名は、北海道の夕張川に由来し、当時、就役して
から6年目の新鋭艦で総トン数1700トンのガス
タービン艦、乗員も100名と新米の艦長にとっ
ては指揮統率上、もってこいの艦でした。

着任早々に、上司である隊司令に言われた言葉
が、「艦長、6月に能代港に入港するぞ。それま
では、操艦（艦を操縦する技量）の腕をあげて
おけ、今年は能代市の市制50周年だそうだから、
体験航海もやるぞ。」でありました。なんと、私
の着任前から第35護衛隊の3隻（いしかり、ゆ
うばり、ゆうべつ）の能代入港が決まっていたの
です。

能代港は、私にとって初めての入港であり、し
かも、新米艦長としての入港でしたから艦長に
なって最も緊張した瞬間でもありました。

岸壁に無事横付けを終わると、故宮腰市長を始
め多くの能代市民の歓迎を受け、能代に無事入港
できた喜びをかみしめました。

能代入港の当日、地元の新報である「北羽新報」
の一面に「第35護衛隊、能代港に入港、袴田艦

長は能代出身」と3隻の艦が写真入りで掲載され
たため、新聞を見た人が3日間の入港中に連日、
長蛇の行列で見学に訪れていただきました。

体験航海は、午前と午後にそれぞれ約1時間半
行い、その他の時間は岸壁に横付けしたままで艦
内公開を実施しました。

第35護衛隊は、3艦ともにガスタービン艦の
ため運動性能が良く、2分以内で停止の状況から
最大速力（時速約55キロ）に達するため、体験
航海においては、3艦を平行に50メートル間隔
に並べ、停止から最大戦速を下げる展示が最も
人気があり、乗艦した人々から歓声が上がって
いました。

また、能代入港中に能代高校時代の恩師の故平
野忠夫先生や故市川嘉宏先生と艦の食事（海軍カ
レー）をいっしょにして、大変喜んでいただいた
のを今でも鮮明に覚えています。

私が「ゆうばり」艦長として能代港に入港して
から今年でちょうど20年目になります。私にとっ
て、新米艦長としてわが出身地の能代港に入港で
きたことは、一生涯忘れられない思い出です。

夏への扉

～はじめてのそうかい～

第47期 野村 一哉

そこにいる誰もが16～18歳へタイムスリッ
プ。アルカディア市ヶ谷（東京同窓会総会会場）
の自動ドアは樽子山と高埜への「夏への扉」でした。

不思議ですね、お知り合いはほんの僅か、初
めてお会いする方がほとんど、それなのに温かさ
と連帯感がある集まり。実を言うと、ちょっとした
煩わしさと現状の自分への不安から、総会へ行く
のをためらったことも本当なのですが、いざ行っ
てしまうとそんなことは吹き飛んで、なんとも心
地よい空間なのでした。それに、新たなお知り合
いがこんなにも増えるとは。

そしていま感じていることは、樽子山と高埜の
両方を知っている我ら47期、もっと皆を同窓会
の集まりに連れて行かなくては！ということなの
です。

東京同窓会 “栗原支局” からの現地レポート

第45期 大塚 雄蔵

本年4月より総務省から栗原市へ派遣され、市役所勤務となり、単身生活を送っている。この機会に、現在の状況と栗原の魅力を少しでもお伝えできればと思い、筆を執らせていただいた。

宮城県北西部の栗原市は、平成17年4月に栗原郡10町村が合併し誕生した人口約8万人弱の市である。面積は東京23区の1.3倍、緑豊かな森林と清流の数々、遙か遠くまで広がる水田地帯が美しい農村風景をつくり上げている。映画「東京タワー～オカンとボクと、時々、オトン～」の撮影舞台となった細倉鉦山跡の旧佐野家住宅など、時代の郷愁を誘う面影も色濃く残している。

一方、栗原全域が過疎地域の指定を受け、能代などと同様に、お年寄りの姿が目立ち、シャッター通りはもちろん、廃校校舎、売地や空家が多い。今回、このような状況を踏まえ、高齢化率が特に高い地区を対象に、集落支援事業を展開している。住民同士が話し合い、その中から「新たにこんなことに取り組みたい……」という思いが自然と湧き上がってくることを期待している。あくまで住民の方々の思い、考えに依拠するところが極めて大きいのである。

また、平成20年6月の岩手・宮城内陸地震で甚大な被害を受け、被災から2年経過した今でも、当時の凄まじさを物語る爪痕が各地に残されている。つい先日も、山が真っ二つに引き裂かれ移動距離300m、幅900m、面積98haに及ぶ大崩落現場を視察し、自然の猛威を改めて感じた。

栗原市では、これまで「がんばろう栗原」を合言葉に、先の被災を乗り越えてきた。本年度からは全国から支援を頂いた感謝のメッセージとして、「ありがとう栗原」を合言葉に加えている。地域活性化に向けた情熱とパワー溢れる市長のリーダーシップのもと、各大学との連携事業も活発に進められている。企業移転、事業所移転・拡張、職場旅行・研修等、是非、この栗原を選択肢の一つとしてご検討いただきたい。新幹線の停車駅(くりこま高原)があり、積雪も少なく、駅周辺には

広大な土地が横たわっている。

ハクチョウやガンなどの水鳥の飛来地(ラムサール条約の登録湿地)として知られる伊豆沼。また今年は5月下旬から名の由来どおり、残雪が山肌に駒形(馬の形)を描き出している栗駒山。キツネ、タヌキ、イタチ、マムシ、シマヘビ、ヤマガカシと出会うことも珍しくない。旬の山菜や餅菓子の数々、おいしい湧き水など、すべてが地域資源である。今後これらをどう活かしていくかが課題だ。

東京同窓会の皆様も、是非一度お越しいただき、栗原の四季折々の風景をお楽しみいただきたい。田舎暮らしにトライしようとする方ももちろん大歓迎である。空家と農地をご紹介しよう。

能代浜への遠足

第54期 遠藤いぶき

もう十数年前のことですが、子どもが小学1年の時の遠足の行き先は、地域を流れる川の河川敷でした。「え、バスで行くんじゃないんだ」という他の保護者の反応もありましたが、私は「歩いていける身近な自然に触れられていいな」と思いました。

とはいえ、それは大人になってからのこと。私の高校1年の時、遠足が能代浜行きと聞いたときは、やはり「バスで行くんじゃないんだ」と思ったものでした。小学校のころから、なべっこ遠足以外はバスで行くのに慣れていたのでしょう。

たしか5月のさわやかなその日、能代球場に集合し風の松原を抜けて、能高生になってまだ1か月余りの310数名は、先生がたの引率のもと、ぞろぞろと能代浜まで歩きました。それぞれ親しい人とおしゃべりする中には、その企画の素晴らしさをわかっていない感想もあったと思います。

昭和56年のこと、新聞で能代火力発電所の計画が報じられるようになったのは、もう少し後だったのか…。今はなき広い砂浜の思い出とともに、記憶もおぼろげですが、歴史ある防風林といずれ姿を変えるふるさとの浜に連れて行ってくださった先生がたには、後になってありがたく思っております。

平成22年度(2010年)収支決算報告書

(平成21年8月1日～平成22年7月31日)

収入の部			支出の部		
項目	予算	決算	項目	予算	決算
総会収入	766,000	827,000	総会費	1,175,000	1,382,713
会費収入	540,000	516,000	組織拡張費	43,000	24,820
雑収入	111,500	92,371	一般管理費	198,200	143,925
当期合計	1,417,500	1,435,371	当期合計	1,416,200	1,551,458
			当期収支	1,300	-116,087
			預かり金	6,000	-6,000
			前年度繰越金	1,142,643	1,142,643
			翌年度繰越金	1,149,943	1,020,556

★紙面の都合で簡易版を掲載しました。総会資料および東京同窓会ホームページでは詳細をご覧ください。

平成22年度年会費納入者(敬称略)

(2009年8月1日～2010年7月31日入金頂いた方)

【17期】工藤典夫【19期】小林 肇、千葉孝夫、五十嵐嘉久彌、大塚哲郎、鈴木良夫【20期】小野 喬、吉田 裕【21期】五十嵐資和【23期】矢口 裕【24期】山縣輝輔、畑江道弘、今村宏司、蓮沼 旬、金子勝信、豊田 誠、小山黎子、中島正美【25期】畠 豊彦、佐々木胤麿、町田次男、工藤尊久、北嶋 茂、栗原俊一、那須秋男、岡部 忠、民谷恒二【26期】八柳昭義、畠山信孝、板倉富彌、宮腰英彌、佐々木高博【27期】檜森 寛、大村真陸郎、後藤信義、斎藤秀夫、栗原優子、石嶋喜直、川井芳敬、田中郁三、斉藤 齊【28期】石川輔宏、須田正巳【29期】太田勝治、関根市男、宮腰興紀、石川正順、宮腰瑞夫、鈴木元紀、中田龍一、糟谷 愛、塚本祝永、嶋田雄右、清水武久【30期】熊谷幸夫、田村正宏、藤田道義、宮腰 忠【31期】馬場富男、大倉報三、熊谷博雄、高松和夫【32期】高田政勝、高谷 誠、森 喬夫、高橋邦治、森田 弘、菅 紀夫、野呂田正一【34期】庄内 正、長岡忠光、西川廣正、棚橋東峰、畠山 昇【35期】石山 眞、横田真理子、干場革治、榊 修、加賀亮司、高松睦夫、清水芳己【36期】深井 学、加藤和海、武田忠克、男鹿谷浩市、大山金士郎【37期】小林雅夫、加茂谷純一、若狭秀巳、工藤広悦、小野津世子、新堀益夫【38期】豊嶋 誠、金野正道、佐藤春香、岩谷憲一、佐藤能雅、袴田忠夫、市川正敏、新堀勝男、成田正廣、赤塚 剛、畑沢鉄三【39期】大塚 進、菅原 渉、金野峻明、熊谷一美【40期】智田 農、小林 哲、熊澤朝子【41期】小河範也【42期】加藤正人、工藤俊一、佐藤行信【43期】福岡 武、菊池忠夫、佐藤悌弘、渡辺博栄、大塚和博、須藤正喜、高橋敦子、五代儀彦秀、工藤富雄、幸坂和彦、高橋正弥、小林 彰、松尾一彦、石塚信一【44期】庄内俊憲、宮城伸一郎、市川善光【45期】三浦 洋、袴田邦夫、大塚雄蔵、鎌田泰宏、真崎 裕、高松武史、金谷 哲、平野信任【46期】石井 喬、吉田真由美、斉藤靖雄、秋林泰樹、佐々木 恵【47期】和平忠幸、平川 均、野村一哉【48期】北林蒔子、野島美季子、竹内 勉、相川文治【49期】片谷浩之、松永京子、田村盛仁、大塚聡子【50期】石井鉄美【51期】袴田 亘、河田康史、高橋俊博【53期】吉田 順、梶原禎子【54期】佐藤篤規、遠藤いぶき、横山佳子【55期】淡路和子、棚橋はるひ、嶋田久美子【59期】棚橋さゆり【60期】安井正彦、伊藤弘基【62期】大高忠勉【67期】小野 立【73期】北林 悟【79期】加藤 源、加藤健輔、吉田拓洋、五十棲 正、佐藤京介、三上友里菜、渡辺健太

以上合計 180名

※年会費世帯制の適用者3組は二人の名前を掲載しました。

【編集後記】

▽リニューアル第1号をお届けします。判型を大きくして、読みやすく、親しみやすく、を心がけたつもりです。ご感想やご要望など事務局までお寄せくだされば幸いです。今回は、初めての試みとして在校生に寄稿してもらいました。女子生徒も部活でいきいきと活躍しているのは、先輩としてうれしきぎりです。(吉田)

▽藤原六郎先生は卒業のとき「生きているうち、一生が勉強」とおっしゃってくださいました。その言葉にいつも励まされています。このたびご執筆いただき、改めて心ひきしめがんばらねばと思いました。先生、ありがとうございました。(大塚)

▽南極に越冬中の工藤栄さんが激務のなか私たちの質問に答えてくださいました。インターネットを通じて南極と直接やりとりができる時代なのです。日本のみなさん、せめて総会出欠の連絡だけでもください。(淡路)

▽山本校長先生をはじめ母校の関係者の方々にはたいへんお世話になりました。また、会員の皆さんにもいろいろな面でご支援ご協力いただきました。本当にありがとうございます。

松陵健児

能代高校東京同窓会 会報 第20号

発行日 平成22年9月1日

発行 能代高校東京同窓会

発行責任者 太田勝治

編集 会報誌委員会

印刷 大森太田印刷株式会社

■能代高校東京同窓会事務局

〒143-0015

東京都大田区大森西 2-15-21

大森太田印刷株式会社内

電話 03-3765-1779 FAX03-3766-1228

郵便払込口座番号 00150-7-27459

加入者名 能代高校東京同窓会